■文化財課・いしかり砂丘の風資料館　☎62-3711

いしかり博物誌 125

“たこ舟”“はどっち？”

タコブネ（左手前）とアオイガイ。
ペンの長さは14cm。

ん？　似てるけど、なんか違うぞ。第1発見者のFさんは、まず、そう思いました。2012年秋、石狩で初めてタコブネ（蛸舟）が見つかったときのことです。

貝殻に入ったタコが、南の海から流れてくる―。アオイガイ（葵貝）、別名カイダコ（貝蛸）。暖かい海を漂うタコの1種です。本来は北海道まで北上することはほとんどないはずなのですが、2005年以降、石狩浜や周辺の海辺でもときどき見つかるようになってきました。秋から冬にかけて、アオイガイの真っ白な、半透明といっていいくらい薄い殻が、砂浜に流れ着いているのが見つかることが増えてきたのです。調査の結果、その年の海水温が高いほどアオイガイの漂着の数も増えることも分かってきました。

そして2012年。Fさんからメールが来ました。「タコブネを見つけた！」。石狩で初めての発見です。後日、標本も届けてもらいました。

「タコブネ」って？　アオイガイの仲間で、やはり殻に入ったタコです。2つの殻の写真を見比べてみてください（写真上）。らせん状に巻いた形、表面の「うねり」など、大まかな特徴は共通しています。しかし並べてみると、タコブネのほうが小さくて厚ぼったい感じ、色も茶色っぽいことから、別種らしいことが分かります。

とはいえ、見慣れていない人が別々に見ただけでは、違いに気づかないかもしれません。実際、江戸時代や明治時代のような昔の文献に珍品として記録されていることがありますが、「たこ舟」と書かれながらも絵はアオイガイだったりします。現代でもインターネット上の記事でアオイガイとタコブネが混同されている例もよくあります。「貝の舟にタコが入っている！」という驚きが強く、細かい違いは気づかないのかもしれません。でも、自然を調査するときにこんなことでは大問題。何十年、何百年後でも本物かどうか確認できるよう、実物を採集し、標本として日付や場所の情報とともに残しておくことが重要です。せっかくの大発見でも、標本がないと記録としては役に立たないのです。

アオイガイとタコブネは生態も似ていますが、タコブネのほうが5℃近く寒さに弱いことが分かっています。2011年まで北海道での確かな発見記録（標本や写真が残っている）は、道南地方などでわずか4例あっただけ。しかし2012年、Fさんのほかにも発見報告をいただき、石狩だけで合わせて4個体も見つかったのです。これでタコブネの最北記録が石狩となりました。2012年の海水はそれほど暖かかったということが、タコブネの採集標本から証明されたのです。

（志賀健司）

砂浜に打ち上がったばかりのアオイガイ。
中にタコが入っている。

志賀健司　Kenji Shiga

専門は地質学・漂着物学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究する。

ERIS「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ（http://www.i-eris.tv/）でもご覧いただけます。